

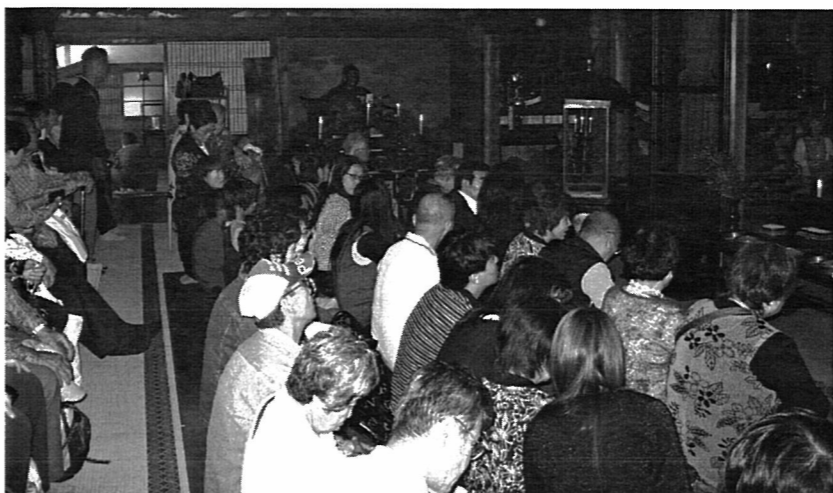
# 春季合同法要のご案内

高野山にも

春が訪れようとしております。

今年も皆様ぜひ

お参りにお越しください。



◆日時  
平成25年3月24日(日)  
12時30分より  
(集合12時15分)

◆場所

持明院・本堂 (和歌山県伊都郡高野町高野山455)

◆法要料(参加費)

無料 (ご希望によりお布施は受け付けております)

◆ご参加

自由・予約不要

◆佛舍利宝塔の参拝時間

午前の部

10時～11時30分まで

午後の部

法要後～15時30分まで

●法要の時間は約40分で、その後に仏舎利のお参りもできます。

●ご親族だけでなく、ご友人などもご参加いただけます。

●当日は12時30分ちょうどから始まりまので、15分前までにお越しください。

●持明院には駐車場がありますが、場所に限りがございますので、できるだけ電車・バスでお越しください。

南海電鉄「こうや号」の特急券は、一ヶ月前から予約できます。

●高野山は山下より温度が下がりますので、冷えやすい方は念のため羽織るものをご持参ください。

●持明院でご昼食をご希望される場合は、ご予約が必要です。

お一人様2,100円(精進料理)お子様向けもご用意できます

●持明院は宿坊もしております。どうぞご利用下さい。

宿泊・大人一名8,400円

## 東日本大震災慰霊碑が建立されます

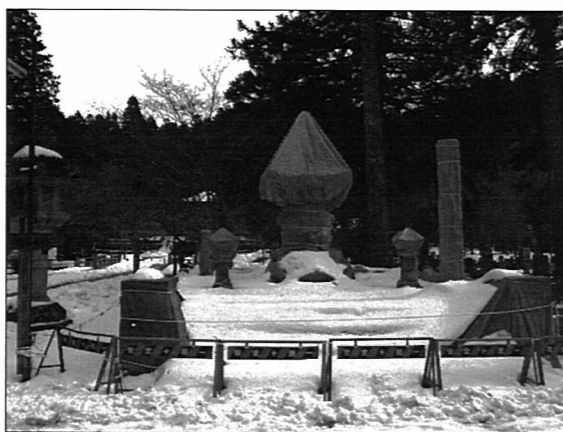
東日本大震災の日から数えて早や二年、奥之院にその物故者の供養塔が建立されます。

また、英霊殿への参道を挟んだ向かいには、阪神・淡路大震災物故者の慰霊碑が建立されています。

さらに、今では伝説になろうとしている大正十二年(1923年)に発生した関東大震災、死者・行方不明者十万余名、住宅被害三十七万三千弱棟という古今未曾有の大災害の慰霊塔も奥之院の中に

あり、当時の東京市長・永田秀次郎氏が私財を投じて奥之院慰霊塔敷地内に建立され、中に納められている物故者の冥福を祈る霊名簿は当時の最新技術を駆使して約一万年の保存ができるようになって

いるそうです。これら近現代のわが国を襲った三大震災が計り知れない犠牲の上に私たちに残してくれた教訓を



建立中の東日本大震災慰霊碑。震災のあった3月11日には完成する予定です。

後世に継承するための「よすが」にしなければならぬと思います。

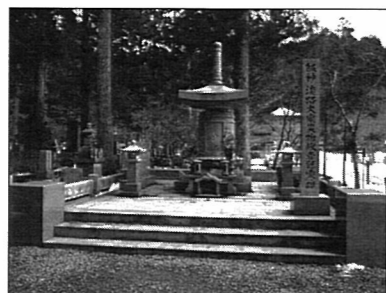
高野山では、この関東大震災のあった九月一日を「防災」の日として五十二年前に設けられ、毎年「物故者追善法会」が金剛峯寺で行われています。

人類は自然の恵みの中で生きられるとともに、一方でその脅威によつて幾多の災害に遭遇してきました。人類の歴史はこうした自然外圧との闘いの連続ともいえます。

「自らの生命は自らが守る」という「自助」の意識と「相互扶助の精神に基づいて助け合う」という「共助」の意識を養って共に歩んでまいりましょう。

ここに高野山は開創以来、現在そして未来永劫日本人の魂の安息地として存在する由縁です。

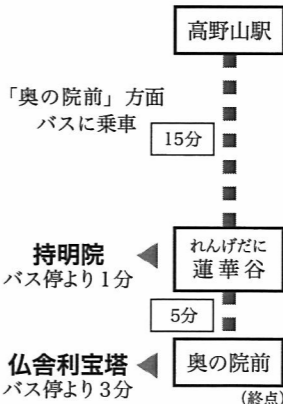
▼阪神・淡路大震災慰霊碑。東日本大震災慰霊碑の道をはさんだ向かいにあります。



▲関東大震災の慰霊碑。一の橋側から入ってすぐのところ。



高野山駅からはバスで約15分(タクシーもあります)



南海電鉄 時刻表(3月~11月 土日祝専用)

行き	難波 発		高野山 着		
	特急1号	8:00	9:33	8:12	9:57
帰	特急3号	9:00	10:34	9:02	10:45
	特急5号	9:24	11:06	10:00	11:32
り	特急10号	10:02	11:53	10:24	12:07
	特急12号	10:24	12:07	13:39	15:24
		14:03	16:02	14:40	16:24
		15:03	17:02	15:19	16:50
		15:45	17:36	16:02	17:50
		16:31	18:24	16:31	18:24

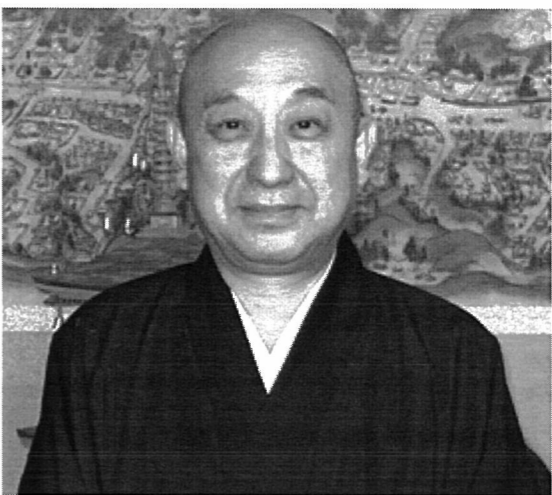
### ●お車の場合●

橋本市内まで来てから京奈和自動車道に「橋本」ICから乗り、「かつらぎ」IC(現在の終点)まで行きます。その後24号線を約1kmほど進み480号線に乗るとそのまま高野山までつながります。

※2013年3月現在、京奈和自動車道は全開通していないため上記区間は無料で利用できます。

# 追善は故人をよみがえらせる

別格本山持明院 住職・竹内崇雄



梅のたよりも聞かれる頃となりましたが、山内は未だ厳しい寒さが続きます。

「はすの会」会員の皆さまには、佳きお年をお迎えになられたこと心よりお喜び申し上げます。

間もなく合同法要が開かれますが、皆さまにとってはそれぞれご先祖の追善法要となります。

一般に、ご先祖をまつることを、

## 会員便り

◆奈良県・松崎様  
「はすの会」入会に今思つこと

時代の流れが加速化する中、とは言つても、人の世界で起こることがそう変わるはずはないと信じ、古希を迎え、より若い経営者の皆さんと仕事を共にさせて頂くことで、人生を謳歌しようと思つていた矢先の平成23年新春、今思えば、これが家内との最後のゴルフとなりました。

二人で三重県のリゾート地でラウンドしていた時、まさかその一ヶ月後に、妻が不治の病を宣告されると思ひもせませんでした。

帰宅後二週間程経ち、風邪をこじらせたと言うまま一ヶ月経つても回復しないので、三月頃から大医学病院での検査に入り、そこで「肺がん」しかも末期であることを告げられました。

4月、5月、あらゆる手を尽くし、病院を訪ね、何とか直す方法

「追善は故人をよみがえらせる」といいます。

追善の法事のとき、子は親を、夫は妻を、妻は夫を、また親は子を、その生前のことを思い浮かべ、最後の別れに流した涙を、また新たに零す思いになられることでしょうか。

しかし、それほど強かった悲哀の情も歳月とともに弱まります。

一周忌以上三回忌、七回忌など回忌法要は、ともすればなおざりになり勝ちになる遺族の方々に、しっかりと思い出していただけのように、との意味もあります。

先祖があるからこそ、いまの私たちがあり、さらに子孫の未来を開くことにも通じる生命の尊さをしみじみかみしめて、合同法要にのぞんでいただけたら幸いです。

合掌

りの幸せと思ひ、春秋の法要に参加させて頂く人数が増えることも喜びに感じておりました。

そんな時、妻の病。

今日まで、陰で家族を支えてくれた妻に対し、今できる限りのことをやり切ろうと、はじめての炊事、洗濯、掃除、不慣れながらも家事をこなし、毎日病院に通い、できるだけ妻と一緒の時間を過ごしました。

その甲斐なく、平成24年7月5日、妻は71年の生涯を終えました。この度、妻の遺骨を高野山に分骨し、ご供養をお願いします。

また来る一周忌には、地上墓「冥福五輪塔」をお願いすることといたしました。

身近な人の死に接し、あらためて思うことは、人の生のはかなさでしょうか。

今、私自身が日々の喜怒哀楽に時間を過ごすことさえ、自分の意志であつてないようなもの、であるならば、目の前で起こること全

考えを変えることで自らが変わり、周囲が変わる

・はすの会代表・上善嘗一

お釈迦さまは「一切の苦の因は我より生ると知るとき、世界の意味が変わる。世界は元のままでも考え方の転換によって、我を強く深く生かし、直す力となる」と説かれています。

私の知人の経営者で、その口ぐせに『決してセイ病になるな!』があります。初めて聞いたときは驚きましたたが、理由を聞いて安堵しました。「性病」ではなく「所為病」だったのです。

人は概ね、不幸や不運を他人や周囲・環境の所為にし勝ちです。成功する人達は、決して他の所為にはせず、失敗しても自分の考え方、やり方が間違っているのか、その原因を自らに求めています。

要は、人は心の持ち方一つで周囲が変わり、自らを強くする、ということです。

て受け入れ、受け止めて、今生かされていることに感謝する日々こそ、本当に幸せと感じます。

また、それが妻への供養であると信じています。

これも、聖地高野山の霊験あらたかなお力に導かれ、私自身が心穏やかでいられるからこそと、また感謝の気持ちで過ごす日々です。

・スタッフより・

松崎様は元大阪府警の方で、現在はパークエクトディフェンスという会社を興されています。

一昨年頃から奥様の調子が悪い旨はお聞きしておりましたが、いつも元気で明るく笑顔がさわやかな紳士です。はすの会ではこれからも手厚く供養させていただきます。

## 編集後記

今回の会報はいかがでしたでしょうか。事務局ではご意見、ご感想、投稿記事を募集しております。

ホームページには紙面の都合で載せられなかった各スタッフの編集後記も掲載しております。あわせてご覧ください。